

■コメント

1. **A群溶血性レンサ球菌咽頭炎**

定点当たり報告数は2.08人と、例年同時期と比較して多い状態が続いています。

患者との接触による感染を予防するため、マスクの着用や手洗い・うがいの励行に努めましょう。

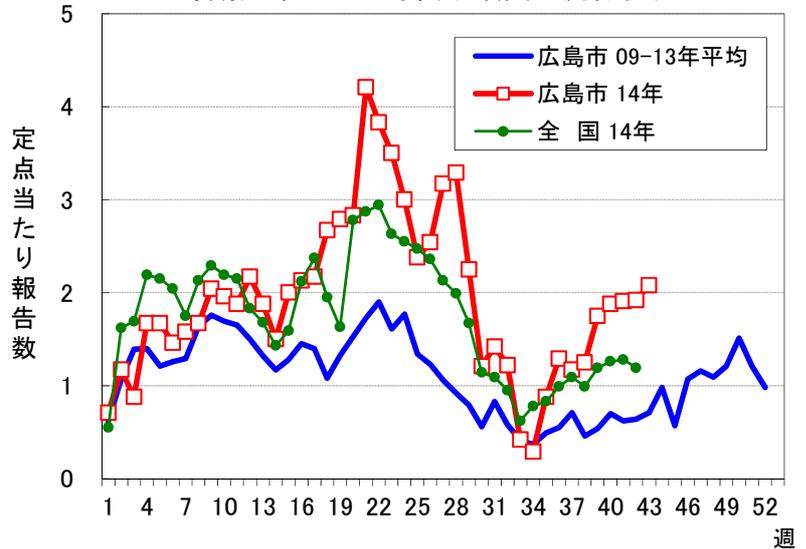
2. **インフルエンザ**

市内の定点医療機関から6人(定点当たり0.16人)報告されています(迅速診断キット:いずれもB型陽性)。

3. **腸管出血性大腸菌感染症**

1件の報告があり、今年の累計は7件となりました。予防のため、食品は十分加熱し、手洗いの励行を心がけましょう。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の流行状況



■定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均過去5年間(注)	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均過去5年間(注)	発生記号
フィリ	インフルエンザ	6	0.16	4.85		小児科	流行性耳下腺炎	20	0.83	0.66	
小児科	咽頭結膜熱	5	0.21	0.24		小児科	RSウイルス感染症	27	1.13	0.45	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	50	2.08	0.71	⇒	眼科	急性出血性結膜炎	-	-	0.05	
	感染性胃腸炎	91	3.79	3.88	⇒	眼科	流行性角結膜炎	6	0.75	0.63	
	水痘	11	0.46	0.69		基幹	細菌性髄膜炎	-	-	-	
	手足口病	14	0.58	0.47			無菌性髄膜炎	1	0.14	0.06	
	伝染性紅斑	-	-	0.06			マイコプラズマ肺炎	1	0.14	0.46	
	突発性発しん	23	0.96	0.46			クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-	
	百日咳	-	-	0.18			感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	
	ヘルパンギーナ	5	0.21	0.07							

急増減	↑	↓	前週と比較しておおむね1:2以上の増減
増減	↗	↘	前週と比較しておおむね1:1.5~2の増減
微増減	↔	↔	前週と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減
横ばい	→		ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注) 過去5年間の同時期平均(定点当たり)

■全数把握感染症報告状況

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	6	153	男性(30歳代)・1人、女性(50歳代)・1人、男性(60歳代)・1人、男性(70歳代)・2人、男性(80歳代)・1人
3	腸管出血性大腸菌感染症	1	7	男性(10歳未満)・O157
5	アメーバ赤痢	1	10	女性(40歳代)

## ■定点把握感染症報告状況(週報対象)の推移

報告数	報告地	週次	インフルエンザ	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	RSウイルス感染症	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	(ロタウイルス)	感染性胃腸炎		
			広島市	第39週	6	4	42	70	16	16	-	9	2	3	18	29	-	10	-	-	-	-	-	-
広島市	第40週	1	9	45	64	16	24	-	12	-	3	19	42	1	13	-	-	-	-	-	-	-	-	
広島市	第41週	-	7	44	69	14	17	-	11	1	4	18	18	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	
広島市	第42週	1	5	46	73	13	6	-	12	1	4	25	31	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	
広島市	第43週	6	5	50	91	11	14	-	23	-	5	20	27	-	6	-	1	1	-	-	-	-	-	
定点当たり	広島市	第39週	0.16	0.17	1.75	2.92	0.67	0.67	-	0.38	0.08	0.13	0.75	1.21	-	1.25	-	-	-	-	-	-	-	-
定点当たり	広島市	第40週	0.03	0.38	1.88	2.67	0.67	1.00	-	0.50	-	0.13	0.79	1.75	0.13	1.63	-	-	-	-	-	-	-	-
定点当たり	広島市	第41週	-	0.30	1.91	3.00	0.61	0.74	-	0.48	0.04	0.17	0.78	0.78	-	0.75	-	-	-	-	-	-	-	-
定点当たり	広島市	第42週	0.03	0.21	1.92	3.04	0.54	0.25	-	0.50	0.04	0.17	1.04	1.29	-	0.75	-	-	-	-	-	-	-	-
定点当たり	広島市	第43週	0.16	0.21	2.08	3.79	0.46	0.58	-	0.96	-	0.21	0.83	1.13	-	0.75	-	0.14	0.14	-	-	-	-	-
全国	第41週	0.06	0.27	1.28	3.12	0.63	0.78	0.15	0.57	0.01	0.38	0.28	0.94	0.01	0.49	0.02	0.05	0.33	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	
全国	第42週	0.04	0.25	1.19	2.98	0.63	0.59	0.14	0.53	0.01	0.23	0.28	0.82	0.01	0.52	0.03	0.02	0.29	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	

## ■新たに判明した病原体検出状況

(検査: 広島市衛生研究所)

診断名	主症状	年齢	性別	発症年月日	検査材料	検出病原体
その他の疾患	発熱(38.2)	0	男	2014/09/09	咽頭拭い液 糞便 鼻汁(拭い液)	コクサッキーウイルスB2型
その他の疾患	発熱(39.0) 熱性痙攣	0	女	2014/09/09	咽頭拭い液	ライノウイルス

\* 感染症発生動向調査に基づく病原体定点搬入分のみ掲載

## 【参考】エボラ出血熱について

エボラ出血熱は、エボラウイルスによる感染症です。主として患者の体液に直接接触することにより感染します。インフルエンザ等の疾患とは異なり、簡単にヒトからヒトに伝播する病気ではありません。

エボラウイルスに感染すると、2～21日(通常は7～10日)の潜伏期の後、突然の発熱、頭痛、倦怠感、筋肉痛、咽頭痛等の症状を呈します。次いで、嘔吐、下痢、胸部痛、出血(吐血、下血)等の症状が現れます。現在、エボラ出血熱に対するワクチンや特異的な治療法はないため、患者の症状に応じた治療(対症療法)を行うことになります。

エボラ出血熱の西アフリカでの流行が依然として続いており、スペインやアメリカでは、この地域からの帰国者が感染していることが確認されています。エボラ出血熱への対応は、まず、この感染症が国内に入り込むことをできる限り防止し、万一発生した場合には、早く対処することが重要です。

**エボラ出血熱の流行地域(ギニア、リベリア、シエラレオネ、コンゴ民主共和国)への海外渡航歴やエボラ出血熱患者との接触があって、発熱、頭痛などの症状がある方については、他者との接触や公共交通機関の利用を避け、医療機関を受診される前に、直ちに保健センターまで電話で御連絡ください。**

名称	電話番号	名称	電話番号
中保健センター	504-2528(保健予防係)	安佐南保健センター	831-4942(保健予防係)
東保健センター	568-7729(保健予防係)	安佐北保健センター	819-0586(保健予防係)
南保健センター	250-4108(保健予防係)	安芸保健センター	821-2808(健康長寿係)
西保健センター	294-6235(保健予防係)	佐伯保健センター	943-9731(保健予防係)

本週報は、速報性を重視していますので、今後調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。なお、感染症情報の詳細についてはホームページをご覧ください。

URL <http://www.city.hiroshima.lg.jp/eiken/center.html>

### 【問い合わせ先】

広島市感染症情報センター/広島市衛生研究所 〒733-8650 広島市西区商工センター四丁目1番2号  
TEL(082)277-6575 FAX(082)277-5666 E-Mail [ei-seikatsu@city.hiroshima.lg.jp](mailto:ei-seikatsu@city.hiroshima.lg.jp)

2014年第43週(10月20日～10月26日)